



「喫茶店」

雑誌「東京人」五月号で喫茶店の特集をしている。それを読んでいたら、この不思議な空間で迷子になってしまった。

もともと喫茶店はフランスのカフェを模倣したものだ。フランス語でカフェとはコーヒー、あるいはそれを飲ませる店のことである。

しかしそれに似たものができた当時、日本にはまだコーヒーを飲む習慣がなかった。日本で最初のカフェは文化人が集まる芸術運動のようなもので、それがいつしかエプロン姿の美人女給がいる洋酒酒場に変貌したのだそうだ。

それに対してコーヒーを飲む店としての喫茶店も、純喫茶という言い方で青年の心を微妙に刺激したり、ジャズ喫茶という独特の文化現象を生んだりした。

(鹿島茂「カフェことはじめ」)

喫茶店について語る時、人は若い頃に返って、薄暗い片隅で音楽を聴き、恋をして、原稿を書き、居眠りをしたことを思い出す。喫茶店は過ぎし日の自分自身で、だからあのような場所はもう今の東京にはなくなってしまうたと言っているのである。(安野光男×池内紀、林静一×松本隆対談)

昔のカフェや喫茶店の写真も数多く掲載されているが、人目を引き好奇心をそそるデザインが多くて、これはどこの国？ いつの時代？ と戸惑ってしま



「喫茶店」

うほどだ。現在営業中の店だって、雰囲気はやはり風変わりな異次元空間。

そして今や喫茶店ということばも死語に近いものになって、新たにカフェがブームなのだとか。めぐりめぐって、分からない話である。 (佐々木涼子)

初出：毎日新聞「マガジンラック」二〇〇〇年四月

ホームページ掲載：二〇二〇年八月